

## 奈良古墳群へのアクセス



- 関越自動車道沼田ICから1.8km、車で約4分
- JR上越線沼田駅から5.8km、車で約13分



## 沼田市歴史資料館

- 奈良古墳群の出土遺物は、沼田市歴史資料館で一部展示しています。
- 〒378-8501沼田市下之町888テラス沼田2階
- TEL 0278-23-7565 駐車場あり
- 休館日 毎週水曜日(祝日の場合は翌平日) 9:30~17:00(入館は16:30まで)
- 観覧料220円(中学生以下無料、障がいのある方と付き添いの方1名無料)



奈良古墳群散策マップ 2020年3月  
沼田市教育委員会文化財保護課  
TEL 0278-23-2111  
bunkazai@city.numata.lg.jp

## 奈良古墳群を動画で観察!



群馬県史跡奈良古墳群  
ドローンによる美しい  
景観映像を集めました。



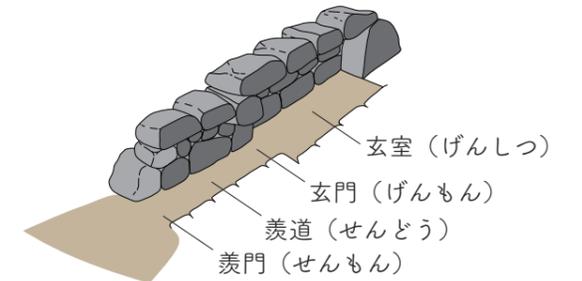
奈良古墳群 VRツアー  
360°カメラで石室内を  
自由自在に観察!ト字型  
石室も一目でわかる。

## 群馬県指定史跡

# 奈良古墳群散策マップ

### 奈良古墳群の概要

群馬県指定史跡 奈良古墳群は、沼田市奈良町に所在する、13基からなる古墳時代終末期の群集墳です。昭和30年の群馬大学の調査では、古墳の痕跡と推測されるものも含めて59基の分布が確認されましたが、開田事業により、多くの小規模古墳が破壊されました。また、平成11年には土地改良事業に伴い9基の古墳が発掘調査されました。古墳の構造は、いずれも埋葬施設として横穴式石室をもつ円墳と考えられます。墳丘(盛土)は開墾により削り取られた部分が多く、石室のほとんどは露出・開口しています。



横穴式石室の模式図

### 古墳時代終末期の群集墳

古墳時代終末期になると、横穴式石室を用いた小規模な円墳を密集させる群集墳が形成されます。横穴式石室は追葬が可能で、石室内には血縁関係にあると考えられる複数の埋葬者がみられることが多く、また群集墳は一定地域の社会集団により形成されたと考えられています。奈良古墳群は、奈良町周辺に存在した社会集団が、自分達の墓域として奈良古墳群の地を選び、古墳を造り続けた結果形成されたものと考えられます。

### 出土遺物の内容

開墾時の採集あるいは発掘調査による出土遺物は馬具類が充実している点特徴で、古墳群を形成した集団は馬の生産に関わっていた可能性が高いと考えられています。これらの出土遺物280点が昭和52年に市の重要文化財に指定されました。



金銅製杏葉(こんどうせいぎょうよう)

### 古代群馬の馬生産

日本社会への馬導入は、古墳時代中頃から始まりましたが、群馬県の榛名山東南麓地域は東国有数の馬生産地でした。馬は古墳時代にあつては権力者の権威の象徴でしたが、7世紀後半以降の律令国家にとっては中央と地方を結ぶ情報伝達手段として、また東北政策のため軍馬として重要でした。奈良古墳群の存在は、7世紀に馬の生産地が群馬県北部(利根・沼田)地域にまで拡大したことを示すとともに、日本社会における馬需要の増大と国家的生産体制が整備されていく状況を示しています。



鉄生壺鐙(てつせいづばあぶみ)

# 奈良古墳群散策マップ

奈良古墳群には、現在 13 基の古墳があり、全て見学可能です。石室の構造を観察したり、古墳時代と変わらぬ風景に思いを馳せたり、自由な時間をお過ごしください。

## CAUTION

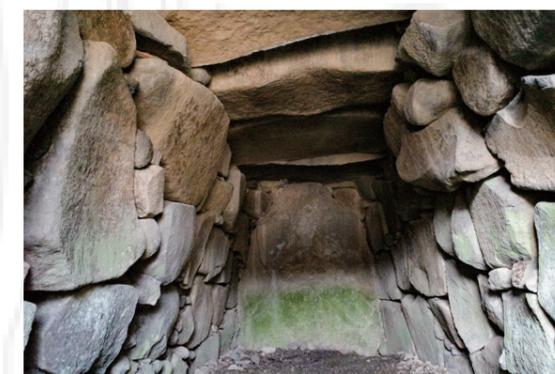
- \* 墳丘を崩さないようにご注意ください！
- \* 露出した石室は崩れる恐れがあるので登らないでください！
- \* 石室が崩れる恐れがあるため柵の内側には入らないでください！



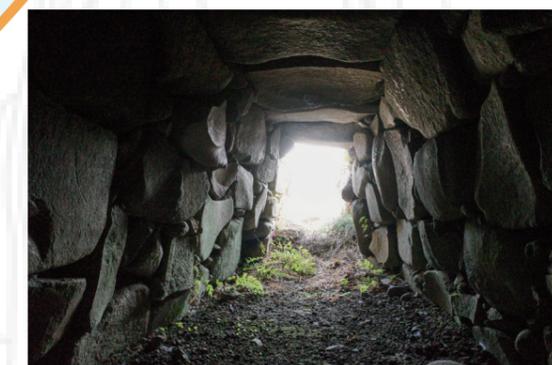
「ト」字型の 10 号墳玄室。左が奥壁、右が側室。ここ以外では高崎市お春名古墳のみが知られる。



7 号墳玄門



一枚岩を用いた 7 号墳玄室奥壁



7 号墳玄室から外を見る

夕号墳

沼田台地の向こうに子持山が見える。古墳時代と変わらぬ風景



古墳群中最も古く、希少な平面「ト」字型の石室。玄室のみ残存。

10号墳

大きな一枚板の玄室天井石が露出している。

11号墳

石室が露出。玄室と玄門部のみ残存。

1号墳

玄室後ろ半分のみ残存する。玄室奥壁や玄室断面型がよく観察できる。

9号墳

古墳群中最も規模が大きい。玄室と羨道の一部が残存する。玄室は長大で高さがあり、石室内が観察可能。

7号墳

遺存状況悪い

16号墳

玄室と羨道の一部残存。玄門部分には扉石が残存し玄門部の構造がよくわかる。

2号墳

玄室と羨道の一部が残存。

3号墳

玄室のみ残存。天井石が崩落している。

4号墳

玄室のみ残存。厚みのある天井石が露出し、並んでいる。

8号墳

玄室天井石が露出。

5号墳

6号墳

デマンドバスぬまくる乗降ポイント  
Aエリア 3706奈良古墳群



ぬまくるウェブサイト

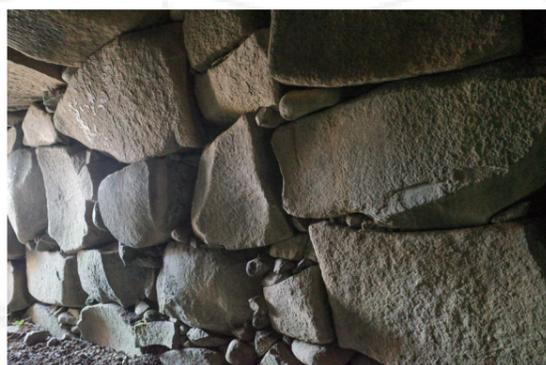
● 古墳 □ 史跡指定範囲



2号墳玄門部分の扉石



風化した2号墳の天井石  
露出してから年月もまた歴史



美しく積まれた7号墳玄室側壁

ならこぶんぐん  
**奈良古墳群**

令和2年2月21日  
群馬県史跡に指定

**はじめに** 奈良古墳群は薄根川と発知川の合流地点の東側に位置し、薄根川右岸の東西約400m、南北約200mの河岸段丘上に展開する7世紀代に築造された古墳群です。周囲は南側に沼田台地の断崖があり、北側も崖を背負った地形で、この地区は小盆地状の地形となっております。

かつて、このあたりに60基もの古墳があったとされ、この奈良町八幡平・大平の一带は「奈良の百塚」とも呼ばれていました。現在は、土地改良等で多くが消滅し、東側の公園予定地を主に十数基のみが保存されています。

遺物は装身具・武器・馬具等が出土しています。特に馬具の飾り金具は銅にメッキしたものが多く発見されていて注目されています。

**1号古墳** 径12.5m～14.0m、高さ2.69～3.54mが現存しています。石室は横穴式両袖形石室です。須恵器の破片が出土しており、7世紀後半の構築と考えられています。

**2号古墳** 径11.5～13.0m、高さ2.64～3.07mが現存しています。石室は横穴式両袖型石室です。1号古墳と似た構造の古墳ですが、玄室の形が異なります。7世紀後半構築と考えられています。2～4号古墳は等間隔に並んでおり、古墳の中心同士の間隔がおよそ25mとなります。

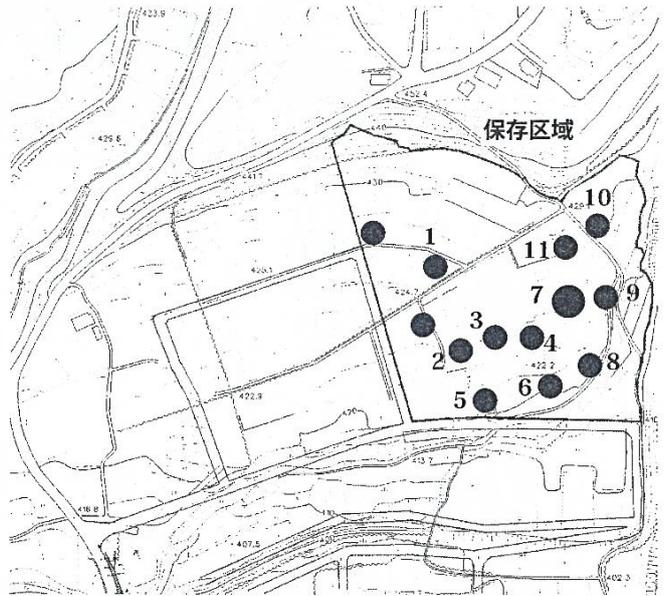


図1 古墳位置図 (数字は古墳の番号)



図2 奈良古墳群出土遺物 (個人蔵)

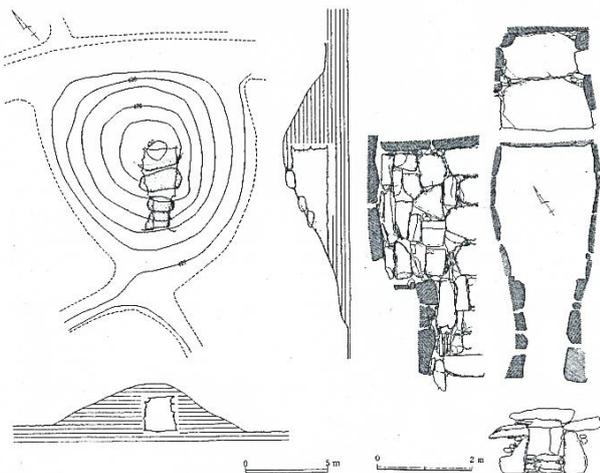


図3 1号古墳

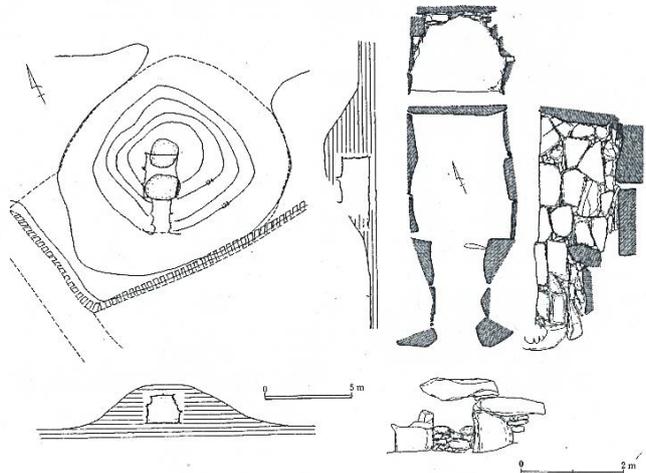


図4 2号古墳

**3号古墳** 径 14.0～15.0 m、高さ 3.07 m～3.24 mが現存しています。石室は横穴式両袖型石室です。1・2号墳とは異なる点として、墳丘の半径と石室全長が同じぐらいの長さであること、石室の平面形は羽子板状であることがうかがえます。石室の平面形は2号古墳より先行する型式ですが、7世紀後半構築と考えられています。

**4号古墳** 径 10.5～12.5 m、高さ 2～2.5 mが現存しています。石室の壁部は乱石積に近く、これは2・3号古墳とは異なります。主体部の位置関係は3号墳と類似するので同時期に構築された可能性があります（7世紀後半構築）。

**7号古墳** 現存する本古墳群内では最大の規模となります。本古墳群の分布域の中心に位置します。径 11.7 m～13.0 m、高さ 3.72～3.96 mが現存しています。石室は横穴式両袖型石室です。

仮に石室全長が墳丘の半径に相当とするとしますと、南北径 1.5 m以上で、東西径はそれより狭く、やや楕円形の古墳になると考えられます。墳丘の下部層は榛名山ニッ岳由来の軽石（6世紀中頃噴火）が堆積しており、軽石降下後に整地して構築されたと考えられます。なお石室の平面形は羽子板状となります。玄室は狭くて長く、羨道長のほぼ2倍の長さとなります。7世紀前半構築と考えられます。

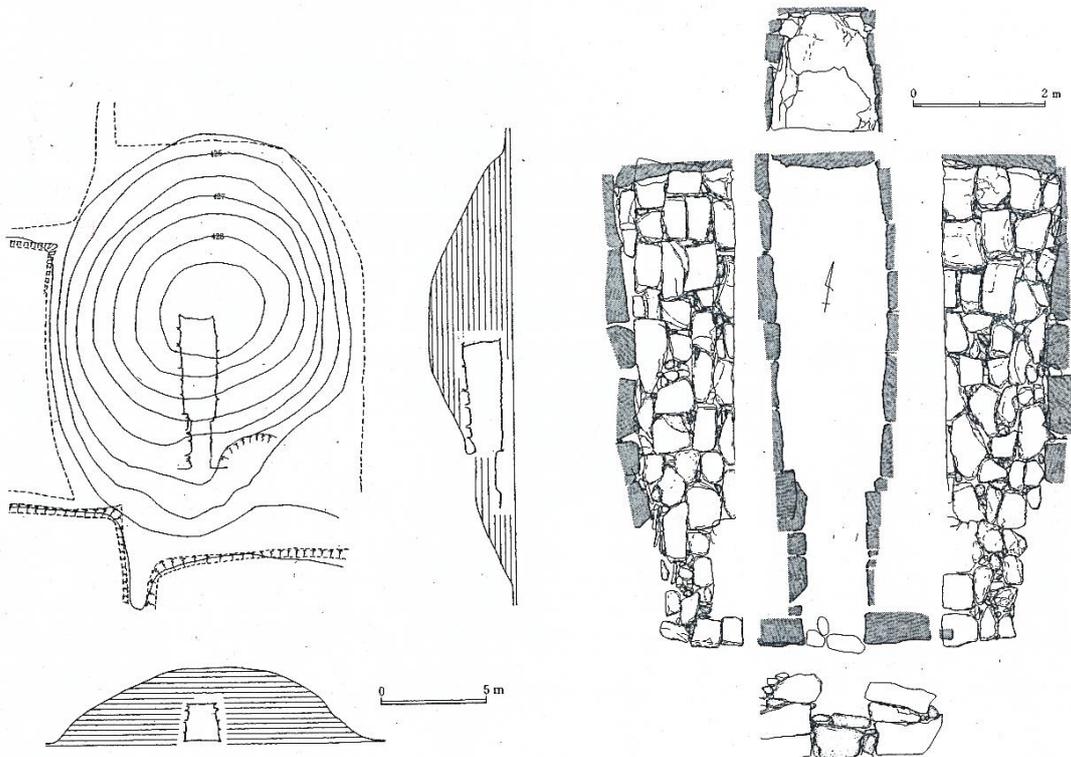


図5 7号古墳

**9号古墳** 墳丘の大部分が崩壊しています。径 6.9～8.4 m、高さ 0.61～1.31 mが現存していますが、小規模な古墳であったと考えられます。石室は半地下式の横穴式袖無型石室で、幅が狭くて長いという特徴を持ちます。これは7号墳にやや先行する形態で、7世紀前半と考えられます。

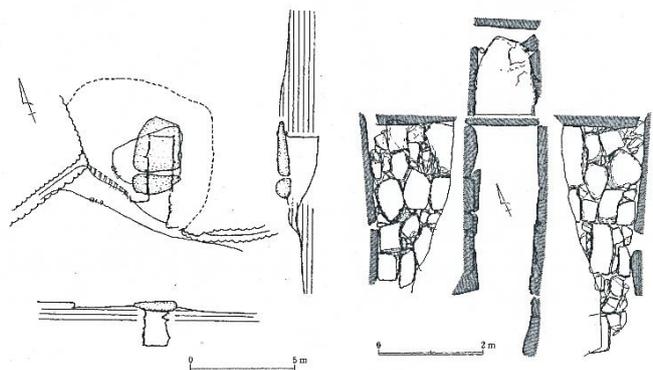
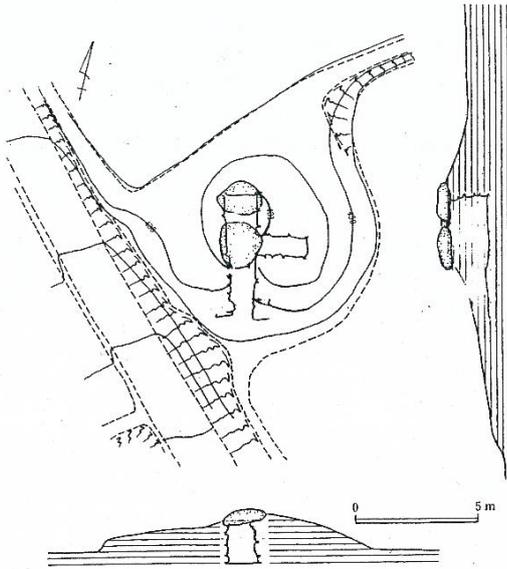


図6 9号古墳



**10号古墳** 径11.0～12.0 m、高さ1.0～1.93 mが現存しています。本古墳群の最東端に位置します。石室は横穴式無袖型石室ですが、特筆すべきは十字状の側室を持つことです。

この側室は後から付け足されたものではなく、当初から計画されて構築されています。このような側室を持つ例は群馬県内でも本古墳を含め2例しかありません。

もう一つの例は旧群馬町の「お春名古墳」(オハナ古墳、才榛名古墳とも言われます)で、こちらは本古墳と反対の方向に十字状の石室を持ちます。埴輪が配置されていたという特徴があります。本古墳は埴輪が存在しないことからお春名古墳よりも新しい可能性があります。似通った形態から年代差はさほどないものと思われ、7世紀初頭に構築されたと考えられます。

**おわりに** ご覧頂きましたように、石室構造の違いから古墳により年代差のあるものが認められますが、榛名山噴出の軽石堆積後に造られていること、埴輪が設置されていないなどの共通の特徴があることから考えて、7世紀代の古墳が主体であると考えられます。

そして10号古墳が最東端に7世紀初頭に構築されたことなどから、東側から古墳作りが始まり、次第に西側にも広がっていったものと考えられます。

他の古墳の石室形態や出土遺物から本古墳群造営の終末は8世紀代に入るところまで続いたと推定されます。

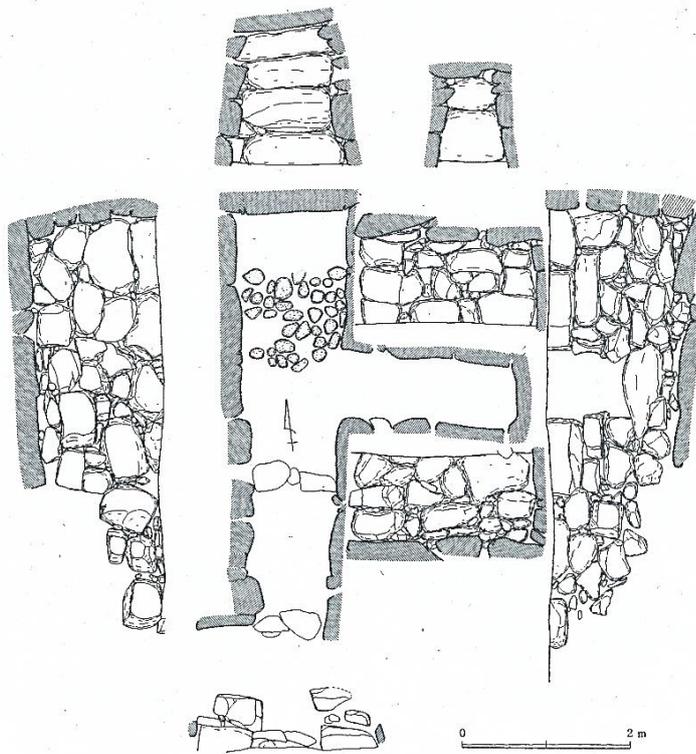
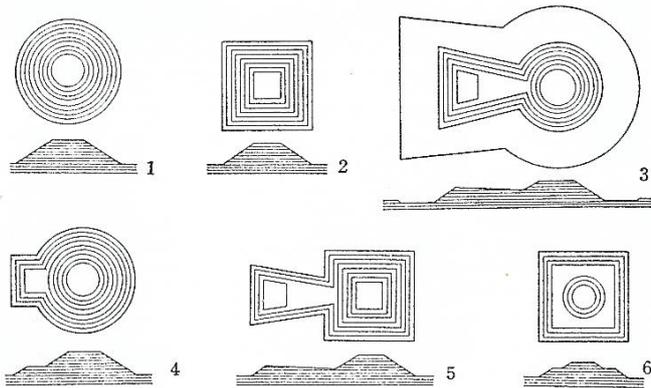


図7 10号古墳



1 円墳 2 方墳 3 前方後円墳 4 帆立貝形古墳 5 前方後方墳 6 上円下方墳

図8 主な古墳の形態

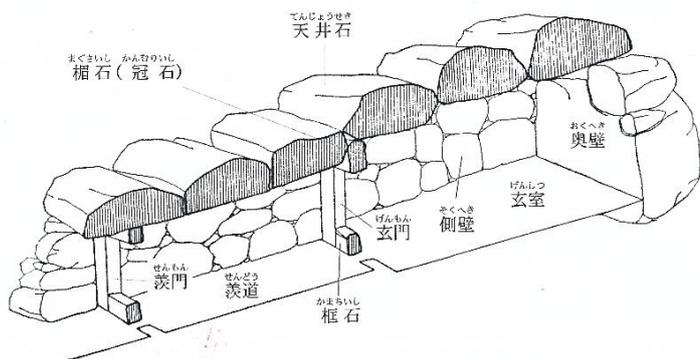


図10 横穴式両袖型石室の構造模式図

群馬県内の群集墳が消滅しつつある中、小円墳がまとまって保存され、馬具の副葬が多く、北毛山間地の古墳時代終末期の群集墳の様相を知る上で代表的な古墳群として、学術的に価値が高いと認められてきたことから、13基の古墳とその周辺一帯が、群馬県の88番目の史跡として、古墳群では初めての県史跡となりました。

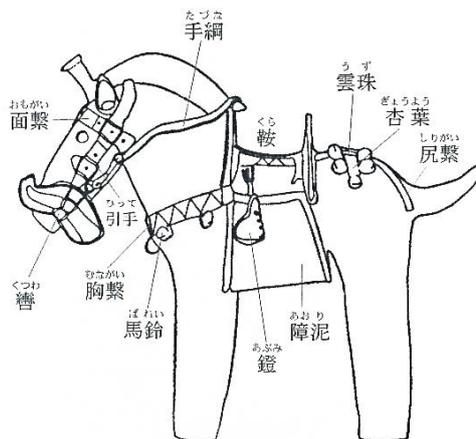


図9 馬具の名称

**古墳の形** 古墳は様々な形がありますが、奈良古墳群は円墳に該当するものが多くあります。なお群馬県は大型の前方後円墳が多い特徴があります。

利根・沼田地域は7世紀代の終末期古墳が多いものの前方後円墳は確認されていません。

**毛彫文様の馬具** 奈良古墳群からは轡・鏡・杏葉などの馬具が出土しています。杏葉は毛彫文様が施されたものがあり、県内でも類例が少ない貴重な資料です。研究により毛彫文様は透かし彫りからの変化が示唆されています。

**横穴式石室の構造** 石室に遺体を安置する玄室とそれに連なる羨道からなります。横穴式石室（上から穴を掘り埋葬施設とする）とくらべて追葬が容易な点が特徴的です。なお、横穴式石室は古墳時代後期（6～7世紀末）に主流となった埋葬施設です。